記者発表資料

平成２４年　１月１７日
福島河川国道事務所

国道１３号　平和通りの自転車利用者が増加！
～平和通り自転車通行空間　整備後１年半後の調査結果～

福島河川国道事務所では、国道１３号平和通り（約６００ｍ）において、より安全で快適な歩道空間の確保を目指して、平成２２年３月に自転車通行空間の整備を行いました。
平和通りの歩道は、特に福島市内でも自転車利用者数が多いことから、歩行者や自転車利用者の安全を確保するため、歩道内を緑色にカラー化することにより、自転車通行位置を明示したものです。
この度、整備後１年半後の交通量などの調査結果をとりまとめましたのでお知らせいたします。

１．調査結果の概要

■自転車の交通量
・自転車の利用者数が整備前と比べて、約２割増加しました。

■安全性の向上
・整備前は歩道利用者の約８割の方々が危険を感じていましたが、整備後は約６割の方が安全性向上を実感しています。
・大町交差点周辺で、歩行者・自転車の交通事故が減少しました。

■自転車通行空間の遵守率
・整備後１年半後の自転車通行空間の遵守率は約７割と概ね守られています。

２．調査結果資料　（別添資料）



《平和通り　自転車通行空間》

記者発表先　　福島県政記者クラブ、福島市政記者会

問い合わせ先
国土交通省　東北地方整備局　福島河川国道事務所 TEL　０２４－５４６－４３３１（代表） 道路管理課長　　佐々木　章　夫　（内線４３１） 建設専門官　　橋　本　幸　雄　（内線４１０）

別添資料：平和通り自転車通行空間　整備後の調査結果

１．自転車通行空間整備の概要

（１）自転車通行空間整備の背景・目的

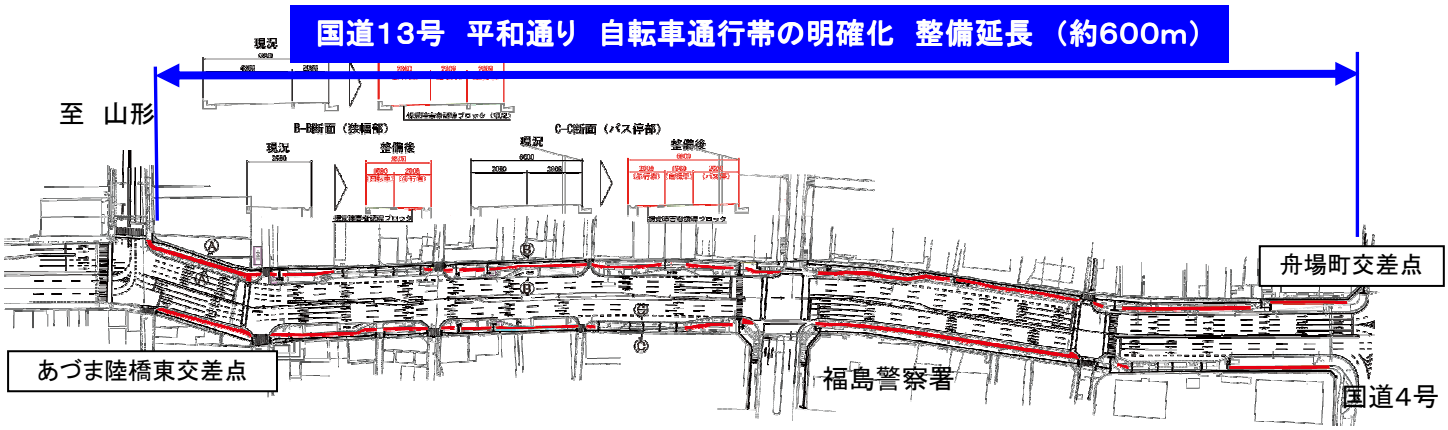
国道１３号平和通りでは、歩行者と自転車が錯綜することで、双方が危険を感じる状況が発生していました。そこで地域の代表者などで「平和通り歩道環境整備計画策定検討会」を設立し、歩行者、自転車利用者が安心、安全かつ快適に利用できる歩道環境の整備（自転車通行空間の整備）を実施しました。
今回は、整備後１年半後の交通状況をとりまとめました。

当該区間は「福島市交通バリアフリー基本構想」「自転車通行環境モデル地区（国土交通省・警察庁）」として位置付けされています。

（２）自転車通行空間整備の概要

歩道内に、カラー化（緑色）して区分した自転車通行帯（幅１．５ｍ～２．０ｍ）を設置しました

■供用開始　：　平成２２年３月２５日
■実施区間　：　国道１３号　舟場町交差点～あづま陸橋東交差点



■整備後の状況写真

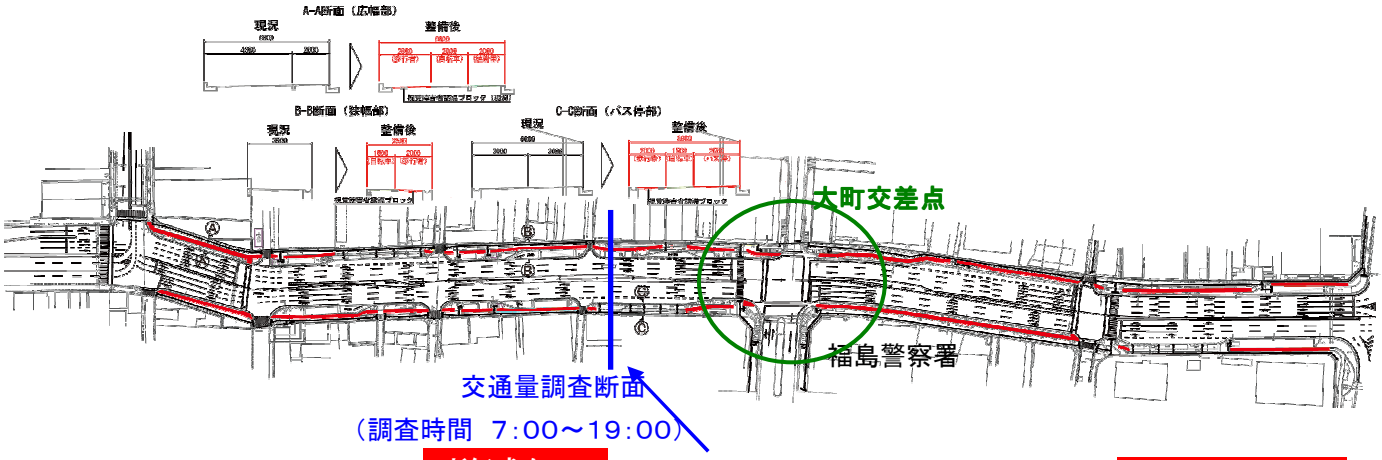


カラー化（緑色）して区分した自転車通行帯

２．整備後の調査結果

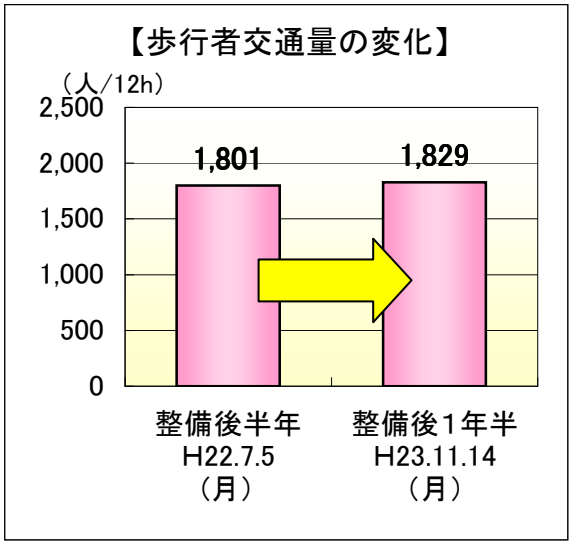
（１）自転車通行帯整備前後における　歩行者・自転車交通量の変化

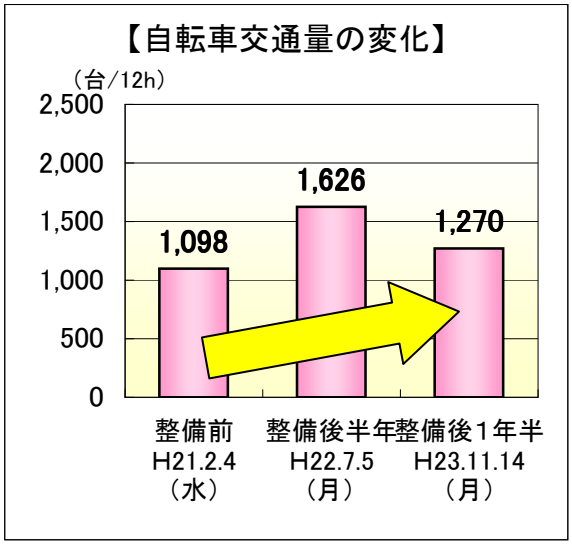
■整備前後で歩行者数の変化は見られませんでしたが、自転車交通量は約２割増加。



増減なし

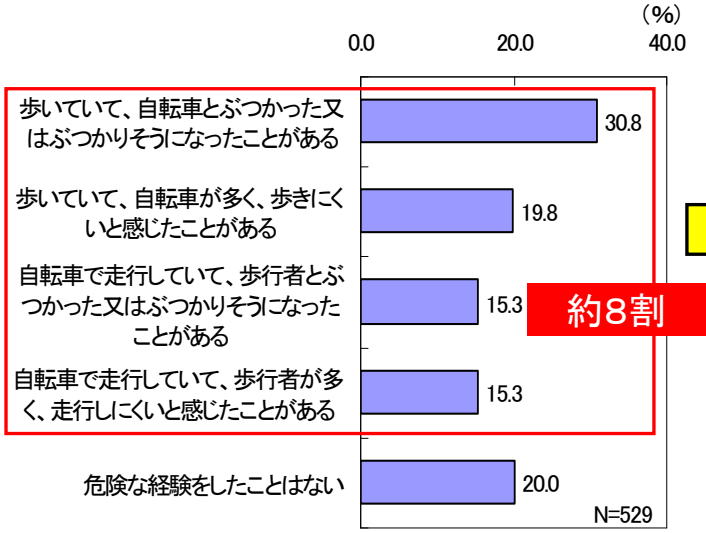
約2割増加





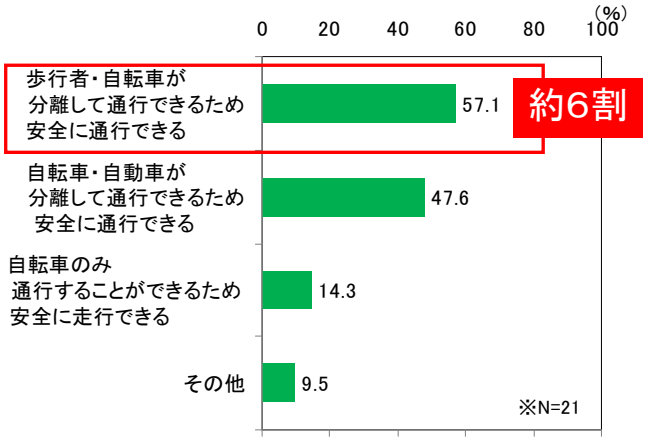
（２）安全性の向上

■整備前は約８割の方々が危険や不満を感じていましたが、整備後は約６割の方々が安全性向上を実感。



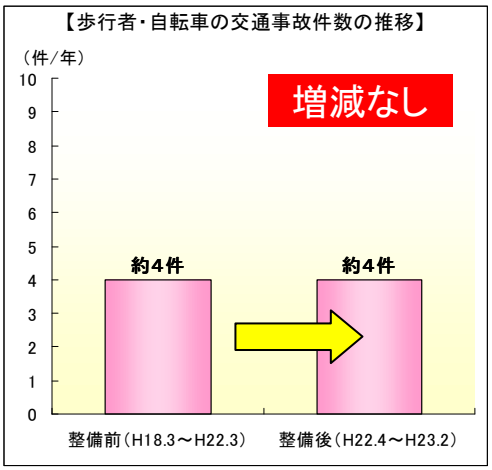
【走行時の危険な経験（整備前：H21.2.4）】

【利用者アンケート結果より】

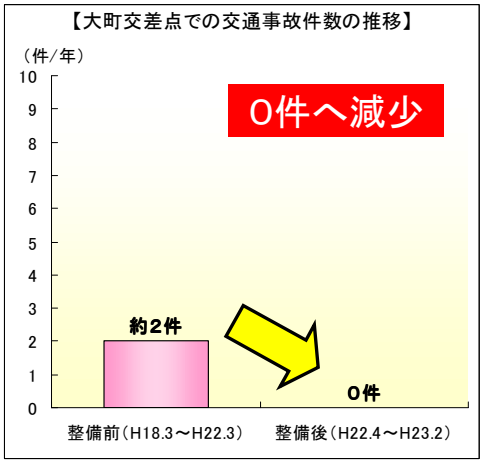


【走行時に良いと感じる点（整備後1年後：H23.2.3）】

■整備前後で大町交差点周辺での歩行者・自転車に関係する死傷者事故件数が減少。



【整備区間内での事故件数の推移】

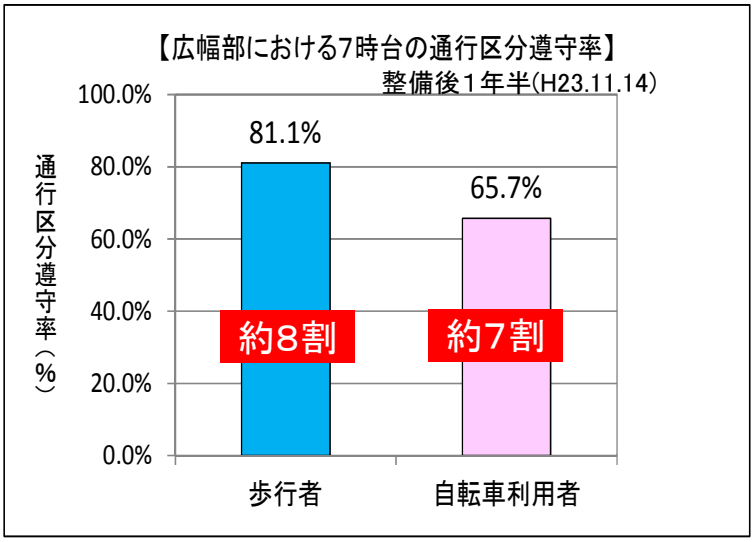


【大町交差点での事故件数の推移】



（３）自転車通行帯整備後の歩行者・自転車通行帯の遵守率

■整備後の遵守率はピーク時（朝７時台）で歩行者が約８割、自転車が約７割と概ね守られている。





【遵守率】
歩行者、自転車利用者が、各々区分けされた通行帯を通行している割合。

※自転車モデル地区（全国）の遵守率　69%（自転車走行空間タイプ）

■広報活動も実施し、整備後半年後と１年半後の自転車遵守率（ピーク時）を比べると約２０％上昇。

○H23.9月に福島河川国道事務所、福島県警察、福島県、福島市の４機関が合同で自転車通行マナー向上のため広報活動を街頭にて実施しました。



【広報活動時の様子】



【配布チラシ】

